

Vol.3

がやチラ

ちょっと面白いコミュニティスペースでの毎日



梅シロップや梅干しの仕込みもひと段落し、あとは梅雨明けを待つばかりとなりました。毎年この時期になると、青梅の香りが部屋いっぱいに広がります。梅を洗い、ヘタを取り、瓶に詰める。決して難しい作業ではありませんが、不思議と心が落ち着く時間です。今年も無事に仕込みを終え、「これで夏を迎える準備ができたな」とほっとしています。梅仕事が終わると、次は味噌の仕込みです。

私は大学で生物学を専攻し、微生物を扱う研究をしていました。その頃から「発酵」が大好きになりました。漬物、ヨーグルト、味噌、納豆、塩麴。気がつけば、さまざまな発酵食品を作ってきました。

発酵食品というと、健康に良いとか、体に優しいというイメージがあるかもしれませんが、もちろんそれも魅力なのですが、私が惹かれるのはもっと別の部分です。

発酵は、人間が作っているようでいて、人間だけでは完成しません。私たちができるのは、材料を用意して、環境を整えて、あとは待つことです。実際に働いているのは目に見えない微生物たちです。人間の目には見えない小さな生き物たちが、それぞれの役割を果たしながら食べ物を変化させていく。その営みを知った時、とても不思議な気持ちになったことを覚えています。

研究室では、そんな微生物たちを顕微鏡で観察していました。特に私が好きだったのは、暗視野顕微鏡という装置です。普通の顕微鏡とは違い、暗い背景の中に微生物たちがキラキラと光って見えます。初めて覗いた時のことは今でも覚えています。小さな細胞が光を反射しながら動いている姿は、まるで夜空に浮かぶ星々のようでした。顕微鏡を覗いているはずなのに、なぜか宇宙を見ているような気持ちになるのです。

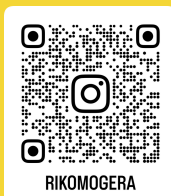
もちろん大きさはまったく違います。宇宙はとてつもなく大きく、微生物はとてつもなく小さい。それなのに、なぜか似たものを感じるのです。

私たちが普段意識しない場所にも、無数の生命が存在している。それぞれが生き、増え、次の世代へ命をつないでいる。そんな光景を見ていると、生命というものの壮大さを感じます。

そして同時に、自分という存在の小ささも感じるのです。自分が悩んでいること。失敗したこと。落ち込んでいること。そうしたものが急に小さく見えてきます。もちろん悩みが消えるわけではありません。けれど、「まあ、なんとかなるかな」と思えるようになるのです。

実は、この感覚を最初に味わったのは大学ではありませんでした。高校生の頃、世界史を学んでいた時にも似たような気持ちになったことがあります。分厚い歴史の教科書。そこには何千年にもわたる人類の営みが書かれていました。

オーナー吉田りこのSNSたち



今すぐ
チェック!

王様や将軍、革命家や発明家。歴史に名前を残した人たちもいれば、名前すら残らなかった人たちもいます。戦争や革命があり、国が生まれ、滅び、また新しい社会が作られていく。そんな歴史を学んでいると、ふと自分の人生なんて、この教科書の一字にも満たないのではないかと、思ったのです。そう考えた時、不思議と肩の力が抜けました。どうせ歴史全体から見れば、私はほんの一瞬を生きるだけです。少しくらい失敗してもいい。誰かに笑われてもいい。やりたいことがあるならやってみよう。そんなふうに思えるようになりました。

けれど、年齢を重ねる中で、その考え方にもう一つの視点が加わりました。確かに私たちは小さな存在です。宇宙の歴史から見れば一瞬ですし、人類の歴史から見てもほんのわずかな時間を生きているだけです。でも、その小さな存在の集まりが社会を作っているのです。

誰かの優しさ。

誰かの怒り。

誰かの願い。

誰かの挑戦。

そうした一つひとつが積み重なって地域になり、社会になり、歴史になっていきます。私たちは社会の中で生きています。けれど同時に、社会もまた私たちによって作られています。だから私は最近、「私の問題は社会の問題でもある」と考えるようになりました。

例えば、家族との関係で悩むことがあります。仕事で疲れることもあります。居場所がないと感じることも介護で傷つくこともあります。そうしたことは、一見すると個人の問題に見えます。でも、本当にそうでしょうか。もし同じことで困っている人がたくさんいるなら、それは社会の課題かもしれません。働き方の問題かもしれなしいし、地域のつながりや制度の問題かもしれません。逆に言えば、みんなが生きやすい社会は、自分にとっても生きやすい社会です。

私は政治の話をするとき、政党や選挙の話だけをしたわけではありません。もちろんそれらも大切です。けれど、それ以上に大切なのは、私たちの日常と社会がつながっていることに気づくことだと思っています。

なぜ働きづらいのか。なぜ孤独を感じる人が増えているのか。なぜ子育てが大変なのか。なぜ地域のつながりが弱くなってしまったのか・・・そんな問いは、政治の話である前に、暮らしの話です。そして暮らしの話だからこそ、誰にでも関係があります。ガヤChill.では、そんな話をしたいと思っています。正解を出すためでも、誰かを説得するためでもありません。

お茶を飲みながら。野菜を見ながら。ご飯を食べながら。時にはお酒を飲みながら。

「最近こんなことを考えていてね」そんな一言から始まる会話を大切にしたいのです。

顕微鏡の中の小さな微生物たちも、それぞれが生きることで大きな循環を作っています。

歴史の中の名もなき人々も、それぞれの人生を生きることで社会を作ってきました。

私たちも同じです。一人ひとり小さくても、決して無力ではありません。だからこそ、自分の暮らしの中で感じた違和感や疑問を大切にしたい。その問いを誰かと分かち合いたい。

そんな話を、ぜひガヤChill.と一緒にできたら嬉しいです。

ガヤChill.

店長日誌: レンタルスペース



7/31のコンセプトBAR:
アナタの知らない・・・
まちを支える仕事

ご親族でのパーティールームとしてご利用いただくことも増えました。ご自宅の片づけに追われず、準備に時間を使えてイイ！と伺いとても嬉しい♡限られた時間をどう使うかは、手抜きではなく賢い選択。遊ぶ、学ぶ、働く、ぼーっとする。どんな時間も全て自分を生かすための力にしたい。ぜひ！生きて生きて、生きましょう。日常の「なんだかなあ」や、ニュースを見てふと漏れる「解決できる方法があればいいのに」などのつぶやきを、そのまま話せる場所にガヤチルを加えてください。

★火曜日：無&減農薬の美味やさい入荷★毎月の朝市では、お楽しみ試食をお出ししています★常設：ハンドメイド小物を販売中★席の時間貸し、キッチン付きレンタルルームは持ち込みOK



コミュニティCafe?!

ナニソレおいしい？そう返す方は少なくないはず（偏見）。何をするといい？誰が使うの？そこに行ったら楽しい？

最近まで同じ疑問を抱いていた店長がゆるっとお伝えします。

越谷市大里226-1 1F (大袋駅徒歩10分)
コミュニティカフェ ガヤChill.

Instagram

